

達成度調査等及び児童の学習状況から見た成果と課題				○成果	▲課題
第4学年		第5学年		第6学年	
国語	○思考・判断・表現の定着が見られた 特に応用力が身に付いている。 ▲要点を捉えるのが苦手としている児童が多く、話すこと・聞くことに課題が見られる。	○総合的に見ると、学習内容の定着がうかがえる。 ▲記述式の問題を苦手としている児童が多く、特に、書くこと・読むことに課題が見られる。	○総合的に学習内容の定着が見られる。 ▲文章やグラフの資料を読み取り、記述で解答することはやや課題である。	○総合的に学習内容の定着が見られる。特に昨年度課題だった書くことが大きく伸びた。 ▲大きな課題ではないが、他の領域と比べると読むことや課題がある。	
社会	○思考力・判断力・表現力が伸びている。 ▲知識・技能を定着させ、応用力を高める。特に記述式の問題に課題が見られる。	○総合的に学習内容の定着が見られる。 ▲文章やグラフの資料を読み取り、記述で解答することはやや課題である。	○昨年度に課題だった知識・技能に一定の成果が見られ、基礎力が身に付いている。 ▲大きな課題ではないが、短答式の出題形式にやや課題がある。		
算数	○基礎的な知識・技能の定着が見られた。 ▲式の意味を正しく理解できていない児童が多い。長さや時刻と時間の単元にやや課題が見られる。	○基礎・応用ともに概ね定着している。 ▲データの活用や記述においてやや課題が見られる。	○全ての観点・領域で定着が見られた。特に応用力が身に付いている。 ▲平面図形の単元にやや課題がある。		
理科	○基礎・応用ともに概ね定着している。 ▲大きな課題ではないが、記述式の出題形式にやや課題がある。磁石の定着が不十分である。	○基礎・応用ともに概ね定着している。 ▲大きな課題ではないが、記述式の出題形式にやや課題がある。電流の動きの定着が不十分である。	○全ての観点・領域で定着が見られた。 ▲大きな課題ではないが、記述式の出題形式にやや課題がある。		
授業改善の方針					
国語	・語句の意味や使い方を調べて短作文等に表現する活動に継続的に取り組み、語句を正しく活用する能力を高める。 ・文章を書く活動からどのようなことを学び、どのようなことが分かったのかを児童が自覚することができるような授業展開を心掛けることで、児童の「書く力」の向上を図る。 ・読む目的を明確にして本や文章を選んだり、目的に応じて内容を的確にとらえたり、自分の考えをまとめて交流したりする活動を通して「読む力」の向上を図る。				
社会	・グラフや図表などから様々な事象を読み取る機会を増やし、情報を適切に読み取り活用する力やまとめて記述する力を育てる。 ・体験的な学習を取り入れる。 ・区・県・国の位置や地形に着目してその様子を捉え、地理的環境の特色を考え、表現する活動を充実させる。				
算数	・授業のめあてを明確にし、既習事項を使って粘り強く問題解決をしていく姿勢を育てる。 ・つまづきの原因を知り、コースに合わせて指導法や指導形態の工夫をしながら個に応じた指導の充実を図る。 ・問題文から必要な事柄を取り出したり既習事項を見出して問題に当てはめたりしながら解けるような学習を意図的に取り入れ、統合的、発展的に考える力を身に付ける。 ・児童が問題解決の過程を見通しながら主体的に学習できるよう、授業展開を工夫する。				
理科	・実験や観察の目的を明確にして、児童が課題意識をもって学習に取り組むようにする。 ・結果をもとに考察し、自分なりに実験や観察のまとめを表現する授業を展開することで、自身の考えを文章として表現する能力の向上を図る。				
音楽	・協働的な音楽活動を通して、表現しようとする意欲を引き出し、音楽的な知識や技能を高める。 ・児童の主体性をより高められるよう ICT 機器を活用し、個別最適化を図る。				
図工	・様々な材料や用具に触れたり、全身を使った活動を取り入れたりすることを通して、実感できる活動を重視することで、表現力を伸長する。多様な表現活動を体験することや、自己決定する場面を増やすことで自己肯定感を高めていく。 ・鑑賞活動を通して自他の良さを認め合うことができる環境を整える。児童作品を校内各所に展示することで自然な相互鑑賞の場を設け、多様な価値観に触れるようにする。				
家庭	・5年6年ともに、座学より製作や実習の時間を充実させ、技能に自信のない児童への丁寧な個別指導を図る。 ・様々な学習場面で、児童同士が協力し教え合うことを促し、思考力・表現力を伸ばしながら、知識や技能を身に付けることができるようにしていく。また、家庭と連携して、児童の技術向上を図る。 ・生活を豊かにするための課題、計画、実践、評価・改善のサイクルを基本に学習を進める。				
体育	・児童が主体的に取り組むことができる工夫として、めあてや見通しをもって課題を見いだして学習活動に臨めるよう、指導内容を明確にする。その上で、学年の実態に合わせた場や用具を用意し、ICT も活用しながら学習活動の展開を行う。 ・体育授業における学習環境を整え、児童自ら学び続ける力を身に付けながら自己調整できる指導内容の重点化を図る。				
外国語	・外国語に苦手意識をもつ児童にも楽しく学習できるように ALT と密にコミュニケーションをとり、授業改善していく。 ・高学年は、4線を意識し、正しく書くことができるようにする。英語に対して苦手意識ある児童に対して、絵や文字を見て何を表しているのか英語で言えるように、音声と文字を結び付けられるような指導を意識して行っていく。				